

第9章 駐車場整備計画

1 目標整備台数

(1) 来院者用駐車台数 541台

ア ピーク率の算出

ピーク率A = ピーク時の駐車台数B / (駐車場利用調査日の外来患者数C × 自動車利用率D)

ピーク率 (来院者) A	ピーク時の駐車台 数(来院者) B	駐車場利用調査日の 外来患者数 C	自動車利用率 (来院者) D
57.9%	441台	※1 941人	※2 81.0%

※1：駐車場利用調査実施日（平成27年2月24日）の外来患者数（時間内）

※2：平成24年度島田市民病院患者アンケート報告書の自動車利用率

イ 来院者用目標整備台数の算出

目標整備台数E = 1日平均目標外来患者数F × 自動車利用率D × 駐車場のピーク率A × (1 + 余裕分G)

目標整備台数 (来院者用) E	1日平均 外来患者数 F	自動車 利用率 D	駐車場の ピーク率 A	余裕分 G
541台	※3 1050人	81.0%	57.9%	※4 10.0%

※3：新病院での想定外来患者数

※4：余裕分として10%を想定

(2) 職員用駐車台数 378台

職員用駐車台数は、駐車場利用調査で確認された台数の最大値（389台）より、新病院における人員計画（職員減少率▲2.8%）を考慮し、378台を目標整備台数とします。

(3) 業者用駐車台数 45台

業者用駐車台数は、病院資料「職員駐車場使用者データ」より、45台を目標整備台数とします。

(4) 全体の目標整備台数及び必要整備面積 964台 28,920㎡

上記により、新病院全体の目標整備台数は、来院者用541台、職員用378台、業者用45台の合計964台とします。

来院者用 駐車台数	職員用 駐車台数	業者用 駐車台数	全体の 目標整備台数
541台	378台	45台	964台

必要整備面積は、1台当たりの駐車場面積を30㎡とし、30㎡/台 × 964台 = 28,920㎡です。

なお、駐車スペースの配置は、今後の設計段階において具体的に検討します。

出典：日本交通計画協会編『駅前広場計画指針』 技報堂出版 自家用車駐車場の原単位

2 病院建設に伴う駐車場対策

現在の東駐車場及び障害者用駐車場2は、新病院の建設予定地になっていることから、建設時に使用不能となるため、代替駐車場を確保する必要があります。

(1) 現在の駐車場利用について

本院は、7か所に駐車場を整備しており、合計913台の駐車台数を有しています。現駐車場の内訳と利用状況は次のとおりです。

駐車場別駐車台数

駐車場名称	駐車台数(台)	利用状況
①北東駐車場1	392	来院者5割、職員等5割の割合で使用している。
②北東駐車場2	35	主に職員等が利用している。
③北駐車場	177	来院者6割、夜勤を行う職員等4割の割合で使用している。
④東駐車場	241	主に来院者が利用している。
⑤南駐車場	41	主に職員等が利用している。
⑥障害者用駐車場1	10	主に来院される障害者が利用している。
⑦障害者用駐車場2	17	主に来院される障害者が利用している。
計	913	

既存駐車場別位置図



(2) 新病院建設場所と対策が必要となる駐車場台数について

新病院は、前項の④東駐車場(241台)と⑦障害者用駐車場2(17台)の場所に建設される計画であることから、258台分の駐車スペースを病院周辺の他の土地に確保する必要があります。

また、代替駐車場が必要となる期間は、新病院本体工事着工(平成30年度)から外構工事完了(平成33年度)までの約4年間となります。

(3) 駐車場対策の基本的な考え方

病院建設に伴う駐車場対策の基本的な考え方は、次のとおりです。

- ①患者用の駐車台数は、極力病院隣接地で既存の整備された駐車場で確保することを最優先とします。
- ②医師、看護師(夜勤)及び技術職(夜勤)の駐車台数は、安全・治安を考慮し病院隣接地で確保します。
- ③事務職及び臨時職員等の駐車台数は、仮設駐車場で確保します。
- ④業務用車両については、現在も特定の駐車場がない状況であることから本館北側の搬入スペースを利用します。
- ⑤新たに整備する駐車場については、原則、公共用地を整備し、又は借地して仮設駐車場とします。
- ⑥コミュニティバスの増便等、公共交通機関による代替策を検討します。
- ⑦駐車場の立体化の可能性について検討します。

(4) 代替駐車場について

工事中の代替駐車場として想定されるのは、次のとおりです。

- ・中央公園駐車場など近隣公共施設の駐車場の一部借用
- ・国道1号バイパス高架下の利用
- ・近隣遊休農地等の借り上げ(一時転用) 等